

くすりのしおり

外用剤

2021年04月作成

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

商品名：ラタチモ配合点眼液「ニッテン」

主成分：ラタノプロスト (Latanoprost)

チモロールマレイン酸塩 (Timolol maleate)

剤形：無色澄明の点眼剤、(キャップ) イエロー、(点眼瓶) 白色半透明、(投薬袋) 透明遮光

シート記載：



この薬の作用と効果について

房水産生の抑制および房水流出経路からの流出を促進することにより、眼圧を下げます。

通常、緑内障、高眼圧症の治療に用いられます。

次のような方は使う前に必ず担当の医師と薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬を使用して、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。気管支喘息またはその既往歴、気管支痙攣、慢性閉塞性肺疾患、心不全、洞性徐脈、房室ブロック、心原性ショック、糖尿病性ケトアシドーシス、代謝性アシドーシス、糖尿病、眼内炎（虹彩炎、ぶどう膜炎）、ヘルペスウイルスが潜在している可能性がある。無水晶体眼または眼内レンズ挿入眼である。コンタクトレンズを使っている。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
- ・通常、1回1滴を1日1回点眼します。必ず指示された使用方法に従ってください。
- ・点眼する時は、次の手順で点眼してください。まず、手を洗い、顔をあおむけにし、下まぶたを引き、目をしっかり開けて点眼します。このとき容器の先がまぶたやまつげに触れないようにします。まばたきをせずに静かに目を閉じ、1～5分間目がしらを指先で圧迫した後、目を開けてください。（他の点眼薬を点眼する場合は、はじめの点眼薬を点眼してから5分以上の間をあけてください。）
- ・目からあふれた点眼薬は、清潔な濡らしたガーゼやティッシュで拭き取ってください。（目の周りに点眼薬がついていると、目の周りが黒ずんだり、まつげが長く、太くなったりすることがあります。）
- ・コンタクトレンズをつけている場合には、レンズをはずしてから点眼し、15分以上経過してからレンズをつけてください。（コンタクトレンズが変色することがあります。）
- ・点眼を忘れた場合は、その日のうちであれば1回1滴を点眼してください。なお、翌日に点眼し忘れたことを気付いた場合も、1日に2回点眼したり、1回に2滴点眼したりしないでください。（頻回投与により、眼圧下降作用が減弱する可能性があります。）
- ・誤って多く点眼した場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・医師の指示なしに、自分の判断で点眼するのを止めないでください。

生活上の注意

- ・点眼により、虹彩色素沈着があらわれ、徐々に増加し、中止により停止しますが、点眼した眼と他の眼で色調に差が生じる可能性がありますので、気がついた場合は医師に相談してください。
- ・点眼後、一時的に目がかすむことがありますので、症状が回復するまで自動車や機械の運転操作は避けてください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、眼刺激、点状表層角膜炎、結膜充血、角膜炎などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・瞳の色に変化が見られる [虹彩色素沈着]
- ・眼の異物感、眼痛、結膜充血 [眼類天疱瘡]
- ・息切れ、息苦しい、喘鳴（ヒューヒュー音） [気管支痙攣、呼吸困難、呼吸不全]
- ・呼吸困難、意識消失、立ちくらみ [心ブロック、心不全、心停止、脳虚血、脳血管障害]
- ・全身倦怠感、発熱、紅斑ができ日光で悪化する [全身性エリテマトーデス]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで保管してください。

- ・開封前は、光を避けて2～8℃で保管してください。
- ・開封後は、光を避けて室温（1～30℃）で保管することもできます（冷蔵庫での保管も可能です）。
- ・薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。開封後4週間経過した場合は残液を使用しないでください。

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療専門家向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。